

平成 30 年度 県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」実施報告書（5）

第 5 回「森林管理入門講座」

特定非営利活動法人ちば里山センター

題 名	ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」 第 5 回「森林管理入門講座」 講義：「里山活動における森林管理」 実習：「森林のタイプ別管理」
日 時	平成 30 年 12 月 2 日（日） 10：00～16：00
会 場	ちば里山センター・木更津市笹子地区
出席者	受講生 22 名（12 市）・講師 1 名・スタッフ 1 名・森林課 1 名、佐倉市 1 名
内 容	<p>10：00～11：30 講義：「里山活動における森林管理」 講師：千葉県農林総合研究センター 森林研究所長 福島成樹 会場：ちば里山センター</p> <p>13：00～15：30 実習：「森林のタイプ別管理」 講師：千葉県農林総合研究センター 森林研究所長 福島成樹 会場：木更津市笹子（きさらづ里山の会フィールド）</p>
報 告	<p>・午前中の講義では、「里山活動における森林管理」と題して、森林管理の基本的内容についての講義があった。</p> <p>まず、千葉県の森林の樹種別の面積、蓄積などの基本的データを示し、次にサンプスギの非赤枯性溝腐病、マツクイムシ被害、竹林拡大などの千葉県森林の抱える問題点について解説があった。</p> <p>更に、里山の成立ちとその生態系を支えてきた社会構造の変化が、里山の変化を引き起こしていること、それらに対応するためにはいわゆる里山活動が必要不可欠なことについて、多くの事例をもとにした説明があった。</p> <p>千葉県内の里山団体の実情については、アンケートを基にして、その活動内容、活動面積、活動の課題、必要としている支援について触れ、特に必要としている支援については、運営資金、高齢化対策、技術支援など多岐にわたっていることが示された。</p> <p>具体的な森林管理については、現状の実態調査⇒利用目的の決定⇒整備方法の決定（目標林型の決定）⇒整備作業の順に進め、各段階で活動団体内での合意形成を怠らないようにすることが里山活動には重要であり、更に整備後の実態調査を行い、その内容をその後の整備等にフィードバックすることが必要不可欠であるとの説明であった。</p> <p>更に森林は階層構造をなしており、その階層ごとにどう整備するか検討する必要があること、森林の個々の樹木の数や種類は常に変化していることを踏まえて目標を決める必要があることなど、整備現場で直接、間接に役立つ知見が満載の講義内容であった。</p> <p>・午後からはきさらづ里山の会のフィールドに移動し実習をおこなった。最初に、植栽当年度、10 年生程度、40～50 年生と林齢の異なるスギ・ヒノキ林を比較しながら、その管理のポイント、注意すべき点などについて福島所長から説明があった。人工林については、植栽時の密度、</p>

間伐、枝打ちなどの技術的課題があるが、その目的、コスト、実施時期などについて詳細な解説があり、参加者からも熱心な質問があった。

次にコナラがメインの雑木林に移動し、雑木林の更新の仕組み、更新が可能な林齢などの基本的知識の再確認などを行った。

最後に、きさらづ里山の会が雑木林、ヒノキ人工林の2箇所で繁殖を試みているクロモジについて、同会の木村代表から概要説明があり、その後その生理的特徴、増殖方法、照度管理などについて、福島所長を交えて熱心な検討が行われた。

添付資料（写真）



福島所長の講義



新規植栽地で人工林について解説



10年生の若齢林について解説



雑木林の更新について



雑木林の整備方針について



ヒノキ林の林床に植栽されたクロモジ